

2024 年度 「AI・データ活用力育成プログラム」 自己点検・評価 報告書

甲南女子大学 教学マネジメント委員会
2025 年 6 月 2 日

2024 年度の甲南女子大学「AI・データ活用力育成プログラム」の自己点検・評価を以下に記載する。

(1) 学内からの視点

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等																												
プログラムの履修 修得状況	2024 年度の各科目の履修率と単位取得率は以下のとおりである。 <table><tr><th>科目名</th><th>配当年次</th><th>履修率</th><th>単位取得率</th></tr><tr><td>情報とコンピュータⅠ</td><td>1</td><td>100%</td><td>94.6%</td></tr><tr><td>情報とコンピュータⅡ</td><td>1</td><td>100%</td><td>94.9%</td></tr><tr><td>AI とライフデザイン</td><td>2～</td><td>0.6%</td><td>77.8%</td></tr><tr><td>コンピュータと社会</td><td>2～</td><td>0.6%</td><td>88.2%</td></tr><tr><td>統計学の基礎</td><td>1～</td><td>2.7%</td><td>92.2%</td></tr><tr><td>ビジネス情報実習</td><td>2～</td><td>0.6%</td><td>93.8%</td></tr></table> ※プログラム科目表のうち、学科専攻科目については割愛 プログラム修了者数：49 名（2024 年度末時点） 「情報とコンピュータⅠ・Ⅱ」は全学部 1 年次の必修科目である。一方で、「AI とライフデザイン」「コンピュータと社会」等の選択科目については、履修率の向上に改善の余地がある。	科目名	配当年次	履修率	単位取得率	情報とコンピュータⅠ	1	100%	94.6%	情報とコンピュータⅡ	1	100%	94.9%	AI とライフデザイン	2～	0.6%	77.8%	コンピュータと社会	2～	0.6%	88.2%	統計学の基礎	1～	2.7%	92.2%	ビジネス情報実習	2～	0.6%	93.8%
科目名	配当年次	履修率	単位取得率																										
情報とコンピュータⅠ	1	100%	94.6%																										
情報とコンピュータⅡ	1	100%	94.9%																										
AI とライフデザイン	2～	0.6%	77.8%																										
コンピュータと社会	2～	0.6%	88.2%																										
統計学の基礎	1～	2.7%	92.2%																										
ビジネス情報実習	2～	0.6%	93.8%																										
学修成果	FD 委員会が後期末に実施した「授業改善のためのアンケート」の、【当該科目で良かった点があれば、記入してください】という設問では、「情報とコンピュータⅠ」については、「基本的な PC の操作、PowerPoint や Excel、Word が使えるようになったので良かった」、 「情報とコンピュータⅡ」では、「知識が深まり、研究で使用する統計にも役立った」といった意見が寄せられた。これらの回答から、両科目において一定の学修成果が得られていることがうかがえる。 一方で、より高度な AI・データ活用能力育成への段階的支援が今後の課題である。																												

学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度	FD 委員会が後期末に実施した「授業改善のためのアンケート」の、【この科目を受講して総合的に満足している】という設問において、「情報とコンピュータⅠ」では、【強く思う】、【やや思う】と回答した学生の割合が94.3%（昨年度は86.9%）となり、大きく満足度が向上した。このことから、初学者層に対する指導の効果が表れていると考えられる。 一方で、「情報とコンピュータⅡ」では、同様の回答率が76.4%（昨年度79.1%）となり、やや低下した。統計処理やデータ分析など、より発展的な内容を扱う際には、受講生にとってより身近な事例を扱うなど、対応策を検討する必要性が認識された。
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度	本プログラムで開講する「情報とコンピュータⅠ・Ⅱ」は全学共通の必修科目であるため、本学に入学したすべての学生が履修することになる。このため、授業内でプログラムの内容を周知する機会は設けているが、後輩学生に向けた履修推奨などの積極的な取り組みは行っていない。 一方で、2023 年度より大学公式ホームページに特設ページ「3分でわかる甲南女子大学」を設置し、本学の特色の1つとして「AI・データ活用力育成プログラム」を紹介している。このページでは、プログラムの概要や履修科目の一覧などを掲載し、学内外に向けた情報発信を行っている。
全学的な履修者数、 履修率向上に向けた 計画の達成・進捗状況	本プログラムは、1 年次の必修科目を含んでいることから、履修者数については今後も安定的に増加していくことが見込まれる。 しかし、「プログラムの履修・修得状況」欄にも記載の通り、選択科目の履修率は依然として低調であり、プログラム修了者数の増加には課題が残っている。 この状況を踏まえ、今後は、1 年次必修科目である「情報とコンピュータⅠ・Ⅱ」の授業内において、本プログラムの意義や内容を積極的に周知し、学生の自発的な履修意欲を高めていく必要がある。 あわせて、全学共通教育委員会を定期的に実施し、プログラム全体の発展を図るとともに、構成科目の履修促進に向けた具体的な方策について協議・検討を進めていく。

（２）学外からの視点

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
教育プログラム修了者の 進路活躍状況、 企業等の評価	本プログラムは2022 年度から開始されたものであり、現時点では修了者がまだ卒業していないため、進路活躍状況を評価することができない。 2026 年度に初めてプログラム修了者が卒業を迎える予定であり、その際にはキャリアセンターが実施する進路調査を通じて、修了者の進路状況やキャリアへの影響について把握していく予定である。

産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	キャリアセンターと連携し、学内企業説明会の機会を活用して、協力関係にある企業 5 社より、本プログラムの意義や実施状況に関する意見を聴取した。 以下に、アンケート回答の一部を抜粋して紹介する。 【入社する学生に、学生のうちに身につけてほしい能力（知識）について】 ・Word、Excel、PowerPoint の基本的な操作ができる [5 社中 5 社回答] ・データ集計、表・グラフ作成ができる [5 社中 5 社回答] ・目的に応じて適切なメールを送ることができる [5 社中 4 社回答] ・情報セキュリティの知識 [5 社中 4 社回答] ・統計データ（グラフ・表など）を正しく読む[5 社中 4 社回答] 【AI やビッグデータの活用のためにどのような教育が必要と考えるか】 ・情報セキュリティの知識だけでなく、授業で Excel や PowerPoint、データ集計の基本的な知識を学べることは大学卒業後も大いに役立つと考える。（建材メーカー 人事担当者様より） ・AI やビッグデータを活用できる人材を教育するためには、まず AI やビッグデータとは何かを正しく理解させることが必要だと考えます。非常に便利な一方で情報漏洩等のリスクもあることを学生には知ってほしいと切実に思います。その知識が確立されたうえで初めて、データ活用に向けた分析方法の学習が意味を持つのではないのでしょうか。学生の皆さんには知識の積み重ねを大切にしてほしいです。（システム開発 人事担当者様より） 【「AI・データ活用力育成プログラム」の主旨・目的や科目構成についての意見】 ・IT 業界以外でも、各企業にあるシステム関係部門でも経験や知識を活かせることを周知してもらいたいです。（物流 人事担当者様より） ・入社に向けて最低限の情報セキュリティの知識を持ち、IT リテラシーの向上に役立ててほしいと考えるため、学校の授業で扱っていただくのは企業としては大変助かります。そのうえで、例えば IT パスポートの資格取得講座を開講いただくと、どの業界に就職するにしても役立つ知識を習得することが出来るのではないかと考えます。（システム開発 人事担当者様より） 業種が異なる 5 社から、現場での AI・データ活用の実態や、大学教育に期待することなど、貴重な意見を得ることができた。 配属部署や職種によって求められるスキルには違いがあるものの、共通して「基本的な PC スキル」や「情報セキュリティ等の基礎知識」は必須であるという意見が多く寄せられた。 大学卒業時に、すべてのスキルを習得している必要はないが、「学ぶ意欲」や「自ら学び
--------------------------------------	--

	続ける姿勢」が重要だとの意見も多く見られた。 さらに、「1, 2 年次に習得した内容が、3 年次以降に活用される場面が少ないのではないか」といった指摘もあり、今後のプログラム内容や運用の見直しに活かしていきたい。
--	--

(3) その他

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	必修科目「情報とコンピュータⅡ」では、初学者にも配慮したテキストを使用し、専門分野にかかわらず関心を持ちやすい事例を通じて分析を行っている。たとえば、顧客分析や仕入計画といったビジネスに関する事例に加え、「AI で変わる私たちの暮らし」をテーマに、まちづくり、防災・環境、エネルギー、農業・食品など、身近な分野の事例も紹介している。 これにより、AI の活用が社会のさまざまな場面で進んでいることを実感するとともに、「AI 時代に求められる人材像」について理解を深めることで、自らが学ぶ意義や将来への展望を再確認できるよう工夫している。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	必修科目「情報とコンピュータⅠ・Ⅱ」では、反転授業の要素を取り入れ、毎回の授業で事前学習課題に取り組む形式を採用している。教員は学生の提出物を事前に評価し、理解が不十分なポイントを把握したうえで、対面授業ではその点を重点的に解説するなど、学習効果を高める工夫を行っている。 また、FD 委員会が中間および期末に実施している「授業改善のためのアンケート」では、受講生が特に困っている点を把握し、その内容を指導方法の改善に活用している。 さらに、前期・後期それぞれの授業終了後には、担当教員全員で授業の振り返りを共有し、翌年度以降に向けた授業内容や実施方法の改善に積極的に取り組んでいる。